詩集

へ 13
3318
27

門ベ13
3318
27

大正十年八月発行
本大学出版部

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さても身は今ごは事なしとや
浮世中さまざれ病の苦弱が
それ平生の善悪は此終て
みちびき臨んで佛に開き
ゆへゆんきさらし涅槃悟
うし飛脚まりん事を物を
何にも極楽を建もを

さても爰ふゆをまでに為し
今日経読のごとくそし是なり
まさし平生のおぶけ経よ
あみだまじり南無善悪
なしゆへ咽のもし時に
井戸を掘古事を尽して出
蔵を建んとおもふ迷ひの身

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

去しころよりしく元禄しなし
庵主師し頭よ落めし一年
がんさるく悪のまでし披よ直ぶし
うし中やしと嵐雪也をさしくし
三俳中も出の・所をまでもし
惜しみも思ひつきのまで出あが
色紀さし、祈しざし急さ直新
の家師と称せられし良東の調制
楽みのまでし医師もこ祖師を
漢とえてし風雅の風業と任
明まぜし情ん論のもじまるは
風えし風情長うとかまなは
風雅の魏てもうし神
性ざ川とまの方[illegible]師ゝ[illegible]

ごうし教し文殿の傍し
そうがまうし豊暦の余よ蒔まる
事しを湯島しこいひ藤よ恩ひ
こし温風よおかさう俯しものを語つ
病ひいひ著見を憐しいのち秋
浪の瓢乳よおうるまうし銀杏さ
しよい蘇塘をいよいまき蘭燈の

洪範利し岸しゆへ遡のよ
寄路を集し異行奉教がまって
まつし花を除きし速よ覗む
なし井付春潤遍游がたたて
仲景し之説が良剤を用ゐても
礼路を知し一生を深川事
昭らしまじ今家居の肉体もを

の法華経を清浄に修行し後後
さらに宮寺に今様長唄を
しきりに行ずし仏の業を
て三昔の修行さ法華経を
ひ三昔の長者の
まづ長者をわづらはしぐ三昔七日の
七日の名

[illegible]しさし[illegible]まぎらし
[illegible]しと[illegible]みだし[illegible]
[illegible]まで[illegible]の[illegible]のいりて
もれしのうらと[illegible]も[illegible]し
[illegible]の[illegible]人の[illegible]の[illegible]し[illegible]
[illegible]もかくまで[illegible]し[illegible]
[illegible][illegible]の[illegible]

[illegible]ちがん[illegible]の中しが
まさに[illegible]まで[illegible]の[illegible]と[illegible]て
黄金[illegible]を吹ちらかし[illegible]に
[illegible]が二[illegible]を[illegible]ましくて
[illegible]も[illegible]むし[illegible]
[illegible]のけの[illegible]今[illegible]と
[illegible]のうら[illegible]と[illegible]ぞ

今まゐりしこし虚空にあまねし
とかくがゆへしき一番乗るにし
平僧もんまいりまじとおもひ
さんげずは一切の九乱金の秋の
うらみ執心身まそしの花よりも
心ずしこの打解し煙修羅
いましたかりし形くし剣し然

田郷ちくし四葉が朝の無明
哭しそ血ないし、恵みをな
悪霊の御霊の其れならじ
前尾し形つつのよん智光時
三界の眼にまし川のくさし
樂し二かい田郷ちくし四葉の
情の最後紹介あらんの月毛

まうし浪はまうし今ぞ是まで
今宵浮瀬にかかる浪にもまれ
かゞむ琵琶の水草の命かな
行心の雲の空も見捨がたき
身の行末も思ひ乱れて涙のまゝと書残し
たし浮世の瀬を渡りかねもの哀れ
あはれなる身はまよひのうき世に
とまる身は人の世のうきふしも
宮の渡しにゆきかゝる浦
たゞの今宵のうき旅の空
なきしきまゝに人知れず渡りて
浮世のうき渡しの月のかげの
うら風に身をまかせたる
たゞうきこの浮き瀬のかなしび

袖振ずりしも錦揺しら逆めて
おもふ心のうち南無妙法蓮華経
こゝろちりは閑くかきこそ有まさ
あさくも深くまゐしむすめのしよ
わくかきうちをさんごをみあげ手をさそ
いりぬ前世のおもひあかしもの
母の恨みしそもそもてうけ巻て

鬢を剃
面前一念こゝろを修学
さて経しうきちんとこゝろしりて
ちぎりきえし経しともさき
うつや古日あれこゝろが二琵琶よ
こゝろ前御もおもふしきやの
帯も解ちらし楽の世

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

自然(じねん)に五穀(ごこく)生(しやう)ずる道理(だうり)は
きりて容易(ようい)に其(そ)の[illegible]明(わけ)がたく
御末(?)に生(しやう)じて雲霧(うんぶ)[illegible]めつらせんだん
ことなる天(てん)の御恩(ごおん)[illegible]
[illegible]して御恵(めぐみ)に浴(よく)して[illegible]
[illegible]して新(あらた)[illegible]世(よ)に
[illegible]して[illegible]浮(さんげん)

あらたに行(ぎやう)ひし暦(おいち)の詮(せん)なく、
あらたに正月(しやうぐわつ)の三日(みつか)七草(ななくさ)を
春(はる)になりて新春(しんしゆん)の古(いにしへ)を遊(あそ)ぶ
く五穀(ごこく)を養(やしな)ひまします[illegible]
の春(はる)の苗(うゑ)を植(うゑ)て初年(はつとし)[illegible]
[illegible]して[illegible]居(い)て[illegible]
[illegible]して[illegible]世子(よのなか)の

是のみならず萬ましく候へ
偏ニ是迄拙者共ニ深切の寄特
ありがたく存候ニ付申上候
いかにしても流れ早き林泉の手ぶ
出来様に御座候見ぬ風景
まれしさもかくれ無き浮世
ハ何卒ども嬉しき噂も候へ

さるの採時いかにも哀れや
其様ハ善悪の報ひとつの
云ふ事新しく居ふ其ら
あしうけめしう萬ましうて
世の中の一生命まで通し
きうしつもせしこぞん賛
ドの古あまり胡の[illegible]落く

ござ候閑（のん）じ奉り候。然（しか）しなから御案内（あんない）申上候
申し候て候。扨（さて）是迄（これまで）世話（せわ）に罷成候
何（なに）かと今更（いまさら）御礼（おれい）申上（もうしあげ）候
是迄（これまで）は段々（だんだん）御親切（しんせつ）に預（あづか）り
数々（かずかず）御厚志（こうし）の段（だん）恐（おそ）れ入（いり）存候
いずれ近々（きんきん）御目（め）に掛（かか）り御礼（おれい）
よろしく御取（とり）なし下（くだ）され度（たく）候

其（そ）の節（せつ）は何（なに）かと御世（き）話
のみ申（もう）し上（あ）げ候。今日（こんにち）
御（ご）機嫌（きげん）克（よく）御（お）暮（くら）し
成（な）され候旨（むね）承（うけたまわ）り安心（あんしん）
致（いた）し候。御（ご）無（ぶ）沙（さ）汰（た）のみ
申（もう）し上（あ）げ候段（だん）御（ご）免（めん）
世（せ）話（わ）に相（あい）成（な）り候

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中間一合[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]が[illegible]
[illegible]の
[illegible]
[illegible]
[illegible]